

# 統合失調症は特別な病気ではありません

## 統合失調症って何？

平成14年、日本精神神経学会は「精神分裂病」という病名を「統合失調症」に改めました。

「精神分裂病」という病名は戦前から使われていましたが、医学の進んでいない時代には治療が非常に困難であったため、座敷ろうに閉じこめられ放置された患者も多くいました。そのため「精神がバラバラになり人格が崩壊する不治の病」というイメージが国民の間に浸透し、患者の社会復帰を妨げていました。しかし現在では、症状を抑え再発を予防することが可能になって、社会で生活できる患者は大幅に増えています。

それをはっきりと示し、誤解や偏見をなくして、患者が置かれていた困難な状況を打開することを目標に病名が変更されたのです。

## 症状

統合失調症は思春期から

青年期に発症することが多く、急性期には幻聴や妄想、興奮などが見られ、周囲の人には理解できない言動や行動が現れます。

しかしこの状態は、適切に治療すれば2か月以内には治まります。その後、何をやる気も起きない時期があり、少し時間はかかりますが、半分以上の人は安定した生活が送れるようになります。再発や慢性化する人もいますが、約8割の人は社会で生活しています。

## 原因と治療

統合失調症の原因はまだ分からない点も多くありますが、病気の起きる仕組みが解明され、脳のストレスに対するもろさや、ストレスにさらされる度合いなどが複雑に関係していることが分かってきました。ストレスにより、脳の神経細胞の働きに關わる神経伝達物質のバランスが乱れて、神経が非常に敏感になり発症することがつきとめられ、

それを調整する薬物の開発が進んで、統合失調症の治療は大きく進歩しました。

特別な病気ではありません

多くの人は統合失調症を自分とは無縁のものと思っ  
ていますが、この病気は約100人に1人の割合で起こります。これはがんや脳血管疾患などほとんど変わらない数字です。

また、統合失調症は親から子へ遺伝するような病気ではありません。同じ遺伝子を持っていても病気になる人とならない人がいることが明らかになっています。  
この病気の人は危険だという誤解をなくし、統合失調症の正しい理解に基づき、「こころのバリアフリー（無障壁）」を実現することが今求められています。



佐伯地区医師会佐伯支部  
末田 格

## なるほど!! 健康講座

問合せ 廿日市市保健センター ☎01610